

《薬局サーベイランスコメント》

『第5週（1月29日～2月4日）の患者数は約190万人と過去最多を更新。第6週は前週より減少が示唆されるが、B型インフルエンザが流行の主流となりつつあり、しばらくは嚴重な警戒が必要』

2018年2月6日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2017/2018年シーズン）の2018年第5週（1月29日～2月4日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は前週の値（1,774,469）よりも増加して1,935,715となり、今シーズンの最多数を記録するとともに、2009年に薬局サーベイランスが開始して以来の最多数を再度更新しました（図1）。一方、週明けの月曜日（2018年2月5日）の推定患者数は416,647と前週の月曜日の値を下回っていて、第6週（2月5日～11日）の患者数は前週よりも減少することが示唆されます。

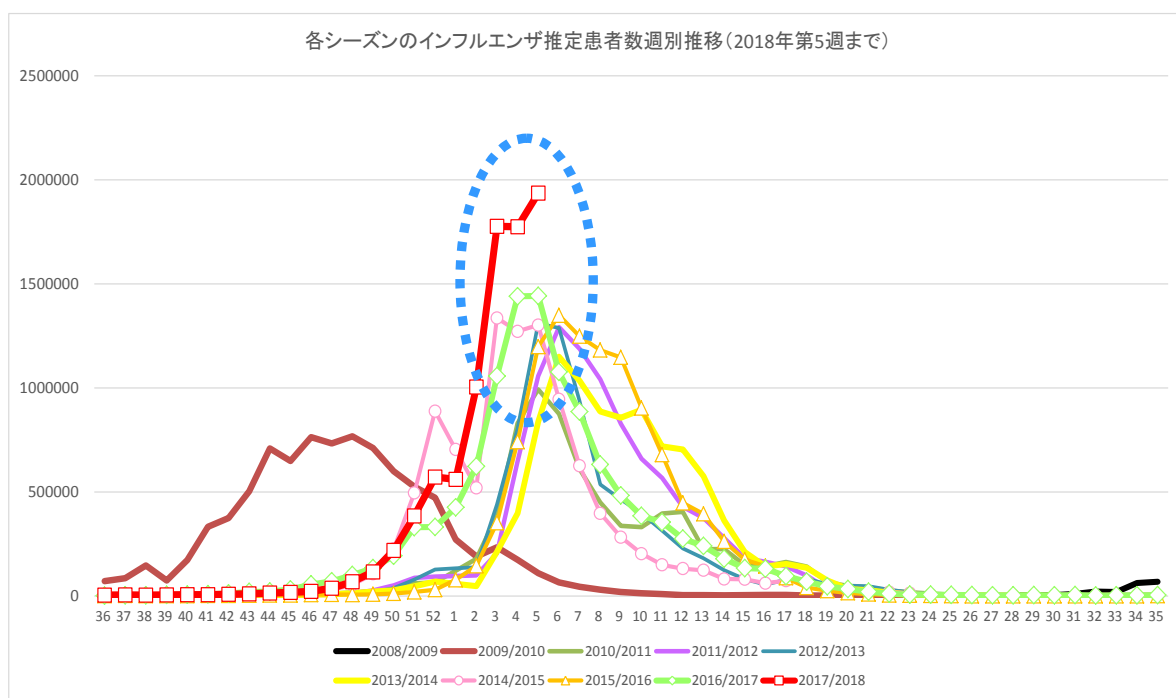


図1. 過去7シーズンと今シーズン（2017/2018年シーズン）の第36～第5週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2018年第4週の推定患者数= 1,935,715）

各都道府県別の第5週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、北海道、大分県、三重県、奈良県、熊本県、富山県、高知県、秋田県、滋賀県、岐阜県

の順となっていて、34 都道府県で前週の値よりも増加がみられています。

2017年第36週から2018年第4週までの累積の推定患者数は8,553,185であり、2017年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は6.75%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳(30.13%)、10～14歳(21.51%)、0～4歳(15.35%)、15～19歳(9.80%)、40～49歳(5.93%)、30～39歳(5.67%)、20～29歳(4.81%)、50～59歳(4.89%)、60～69歳(3.30%)、70歳以上(2.11%)の順となっており、5～9歳の累積罹患率は30%を超えました(図2)。

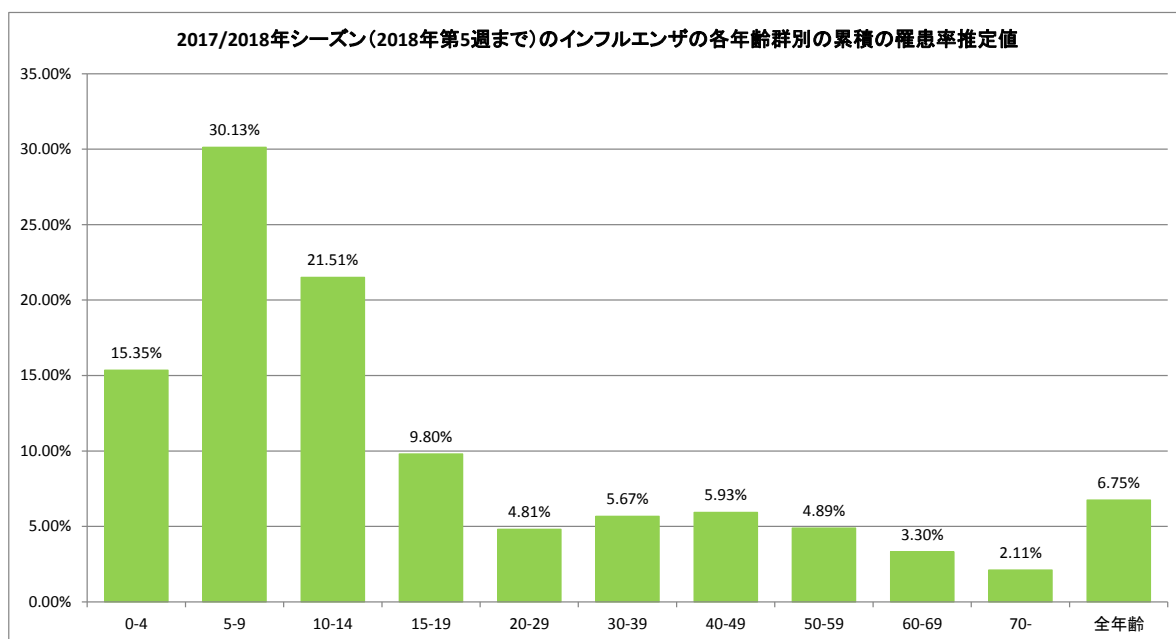


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2017年第36～2018年第3週、累積推定患者数= 8,553,185)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(2,627検体解析)は、A/H1pdm 46.4%、B型 34.2%、A/H3(A香港)亜型が19.4%の順となっています。一方、年明けの2018年第1週以降に検出されたインフルエンザウイルス465検体の解析ではB型50.3%、A/H3(A香港)亜型26.9%、AH1pdm 22.8%とB型(特に山形系統)が多数を占めています(図3)。

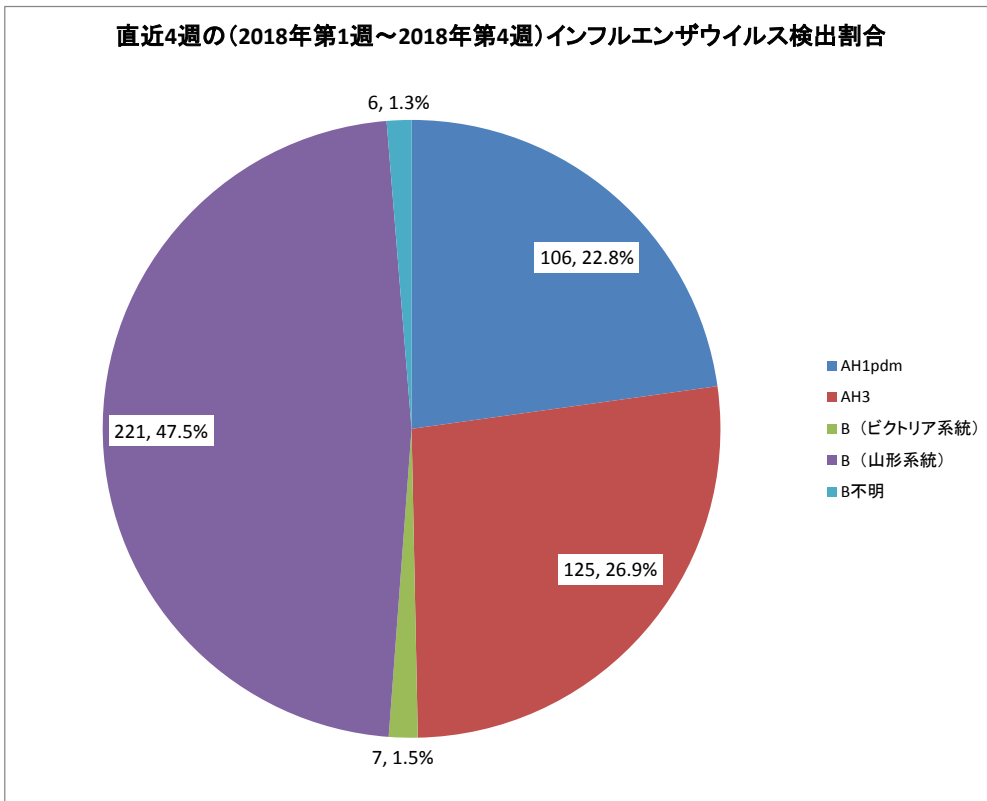


図 3. 直近 4 週間のインフルエンザウイルスの検出割合 (2018 年第 1～4 週、検出数 465)

第 5 週のインフルエンザの患者数は約 190 万人と過去最多数を更新しました。今週(第 6 週)は漸く前週よりも減少する可能性が示唆されますが、B 型インフルエンザが流行の主流となってきているため、現在の流行状態はまだ継続していくものと予想されます。まだしばらくはインフルエンザの流行に厳重な警戒が必要です。